

通信制の芸術大学に通って

大滝 浩 道

1

私は定年後、すぐ通信制の芸術大学に入学しました。入学の動機は西洋美術史を知りたいと思ったからです。定年前には高校の社会科教員であったので、世界史の授業を担当しておりました。しかしいつも西欧の文化を説明するときに力不足を感じていました。特に中世やルネサンス期の美術の説明の場面では、毎回そのことを感じていました。

毎年そのことを感じながらも、授業の進行に合わせて勉強をすることは困難でした。いつも来年こそはと思いつつも果たすことが出来ませんでした。そのため、どうしても政治史中心の無味乾燥な授業ではなかつ

2

たかと反省しています。

通信制の芸術大学は、その当時もいくつかありましたが、西欧美術史の講座が充実していると思える京都の大学の芸術学部を選びました。38年ぶりに大学の成績を請求したり、入学願書を取り寄せたり、いささか緊張しました。

卒業するには7年間で124単位習得することになっていました。大学を卒業している人は文科系学部の卒業生では40単位が認定されるので、残りの84単位の習得が卒業要件でした。もともと私は卒業する気がないので、その分は気楽でした。

専門教科の科目から32単位がスクーリングでの単位習得が義務付けられていました。それぞれの教科は2単位が多いので、遠隔地にいる人や勤めている人にとってはかなりハードルが高いと思いました。

スクーリング科目以外はレポートを提出しますが、年度末にペーパーテストがありこれに合格しないと単位が認定されません。

そんなこともあつて私が入学していた頃は通信学部
に在籍していた人は6000人余りもおりましたが、
卒業者数は毎年1000人にも満たなかったと思います。

3

はじめてのスクーリングに出席したときは大変戸惑
いました。長い間教える側にいた者が逆の立場になっ
たということだけでなく、周囲がほとんど若い女性で
あつたことです。勉強するのに年齢は関係ないと強がつ
ても、七、八割が30歳前後の若い女性に囲まれたと
きは緊張しました。平静さを装ってまわりを見渡すと
私と同年代の方も確かにいるにはいましたが少数派で
した。

あとで大学からきた資料によると六割以上が女性で、

四割程度が短大か4年制大学の卒業生でした。したがっ
て再学習者になります。僅かだがWスクール、つまり
昼間の大学に通学しながら通信でも学んでいる人もい
ました。

若い女性が多いのは大学が京都にあることにもよる
でしょうが、なんと言つても強い学習意欲でした。通
信制の芸術学部を卒業しても再就職等にそれほど有利
とは思われません。技能を身につける専門学校の方が
有利なはずです。

若い女性はキャリアを広げて自分の進路に役立てた
ということもありますが、芸術学部という性格上、
自分探しの面が強いように思いました。中高年の方は
やはり教養の幅を広げたいという思いが強いです。

なれた頃、まわりの「学友」に聞くと日本全国から
集まつていました。北海道から飛行機できた50代の
主婦の方。沖縄からお盆をはさんで10日間もスクー
リングのはしごをする70代の男性。最高齢の方は8
0歳代とのことでした。

比較的近い滋賀県から通つてきていた大学の西洋史
学科卒の20代の女性は、会社の理解がなく、会社に

気兼ねしつつやっとの思いで出かけてきたと嘆いていました。

授業は90分の講義が午前、午後二つづつ配置され、三日間連続です。なかには初日に試験を課して最終日に答案にコメントをつけて返す講座もありました。文献購読のある講座は、先生が端から学生に文献を読み上げさせていました。

講義のほとんどはパソコンによりスライドを使ったもので、私の教員の頃のように黒板にチョークの古典的授業はまったくありません。

遅刻する人も皆無。物音一つしない教場で、ただ一心不乱にメモをとる姿に感動しました。講義をする先生はほとんどが若い先生でしたが、お愛想かどうか知りませんが「ここで講義をするのが楽しみです。皆さん熱心ですから」と話す先生もいました。

講義の間に僅かの休憩時間がありますが、質問攻めで休めない先生もあり、180分間、講義をし続ける先生も多く同情しました。

三日目の講義がおわってから、大学の周辺の飲み屋で先生を囲んでの会が設定されるときもあります。大学の先生のサービスも大変だと思いました。

スクーリングは緊張しますが、その反面では楽しさもあります。全国各地からきたさまざまな方と交流できるからです。大学も積極的に「学友」づくりをすすめています。それは通信制の大学はよほど強い意思と計画がないと卒業まで辿りつけないからです。お互い励ましあう「学友」が力になります。

最近はいバーキャンパスと称して、講義をインターネットでもやっています。あらかじめ登録しておく、大学から暗証番号が与えられ、大学のホームページにアクセスできます。レポートもホームページに送ることになります。

4

私は結局、四年間在籍して20単位ほど習得した程度です。卒業する気がないので自分の好みにあう科目を選択して履修しました。

科目のなかにはAという科目を履修したくても、Bの科目を先に履修することが義務付けられていて、選択の幅がせまくなってきました。

ほかにもお金の問題もあり、このあたりが潮時と思って退学しました。

スクーリングは京都と東京でありましたが、京都は飛行機を使うためにどうしても高額になります。講義のはじまりは朝の9時からで、終了は夕方の4時です。からどうしても前泊と後泊が必要です。そのために5泊6日になりホテル代も含めると、そう簡単に出かけられません。新潟からはやはり東京のスクーリングが費用も安く、日程も短く便利です。

妻からは高いお遊びと揶揄されましたが、得るとこの多い4年間であったと思っております。

私にとっては楽しい4年間でした。レポートも多少の知識の蓄積があつて楽しく書くことが出来ました。はじめて大学に入った方は、資料の探索からレポートの書き方まで苦労しておりました。卒業までたどりつくには相当の努力が必要です。

教員時代に途中で高校を中退する生徒に何人も遭遇したことをいまになって思い出しています。

「なんとか頑張れないか。もう少しだから。いまやめたら後悔するよ」などと言つて説得しました。特に私の教員のはじまりが夜間定時制だったので、仕事と学校の両立に悩みたくさんの生徒が中退しました。はじめて担任したクラスは40人以上もいましたが、卒

業時には30人程度になりました。なかには「勉強しなくなったら通信に通うから」と説得を振り切つて退学した生徒も何人もいました。

そんななかで通信制の大学を卒業する方に敬意を表します。

私の通信制大学での学びは好きな科目のつまみ食いの範囲を出るものではありませんでした。文字通り趣味の通信制芸大通いでしたが、最近になって私のまわりにも、同じように通信制の大学に通っている何人かの方にお会いしました。

私の西洋美術史の学習は少々その臭いを嗅いだ程度で終わりました。しかし西欧世界の基層をなすキリスト教を中心とする文化の深さを感じ取ることができました。

いままで敬遠していた西洋美術にふれることができようになつたのが収穫かも知れません。

お金のことばかり話して恐縮ですが、決して高くはなかつたと思つていきます。

(おおたき こうどう・所員)